

お茶の水女子大学での留學生活

東吳大学 陳珈茵

k2690011

大學一年生の頃は、三年後に自分が日本で交換留學をしているなんて、想像もしていませんでした。今こうして日本で生活していることも、時々不思議に感じます。

お茶の水女子大學で過ごした半年間は、本当にあっという間でした。最初は慣れない環境に緊張していましたが、今では帰国が近づき、少し寂しく感じています。この留學を通して、日本語だけでなく、自分自身も成長できたように思います。

授業では、文法や日本語能力試験対策のほかに、市原先生の「日本語演習ⅢA」を履修しました。日本語の小説を一冊読むのは初めてで、最初は難しい言葉や表現に苦労しました。でも、読み進めるうちに村田沙耶香の『コンビニ人間』や短編小説を楽しめるようになりました。授業でみんなと感想を話し合ったことで、一人では気づけなかったことに気づくことができ、作品をより深く理解できたと思います。この授業を履修していなければ、こうした作品に出会うこともなかったかもしれません。

また、英語の授業も履修しました。特に印象に残っているのは、東京大学との合同オンライン授業「Japan As They Saw It」です。英語を母語とする学生や海外留學経験のある学生が多く、最初は少し緊張しましたが、先生やクラスメートが温かく接してくれたおかげで、安心して授業に参加できました。渋谷や上野、横浜でのフィールドワークでは、普段とは違う視点で日本を見ることができたことも印象に残っています。

授業の他に、テニス部での活動にも力を入れています。練習を通して上達を実感でき、日本人の友達もできました。国公立戦では試合には出場しませんが、みんなで応援した時間も大切な思い出です。

休日には東京だけでなく、川越や宮城、栃木、長野などにも出かけました。それぞれの地域特有の文化や景色に触れたことも、この留學ならではの思い出です。また、一緒に旅行をしたり、ご飯を食べたりしてくれた留學生や日本人の友達のおかげで、留學生活はさらに充実したものになりました。

日本で世界中の人と出会い、日本語や英語でお互いの文化や考え方を伝え合えたことは、私にとってかけがえのない経験でした。交換留學に挑戦して本当に良かったです。この半年で得た経験や出会いを、これからも大切にしていきたいと思います。

